

東南アジアの中高教員 48 名、山形、富山と東京の学校を訪問

～教育を通じた相互理解、日・ASEAN の将来的な関係構築に向けて～



画像は本年 6 月に実施した事業の様子です

国際交流基金（JF）は、ASEAN を中心とした国々の教員を日本に招へいし、日本の教員・児童・生徒との交流を通じて、教育現場での課題や知見の共有と、授業を通じた相互理解を促進する「日 ASEAN 中高教員交流事業」を実施しています。JF が推進する「次世代共創パートナーシップ—文化の WA2.0—」の一環として行うものです。

昨年度は初の試みとして 55 名の先生たちが、大分、徳島の学校などを訪問しました（参加者のインタビューを <https://youtube.com/shorts/3Pnfpaf7xXo> にて配信中です）。昨年度の高評価を受け、本年度は被招へい者数を増加して、総計 100 名としました。

本年度はすでに 2 回実施済みで、さらに、11 月上旬にインドネシア、カンボジアから中学校・高校の先生 22 名が来日。山形と東京の学校を訪問し、先生や生徒・児童と交流します。

続いて 11 月中旬にはタイ、ベトナム、ラオスから 26 名の中学校・高校の先生などが富山と東京の学校を訪問し、それぞれの先生や生徒・児童と交流します。

参加者らは、教育をテーマとした講義を聴講する他、東京都では清掃や給食といった日本独自の教育現場や民間による学習支援や教育格差解消に取り組む団体・企業の活動を見学します。

山形県では、文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール」に指定された山形県立米沢興譲館高等学校、「地域協創 STEAM 教育推進センター」を有する山形大学を視察します。加えて、世界最先端のバイオテクノロジー研究を推進し、地域の活性化に貢献する鶴岡サイエンスパークを訪問し、その先進的な取り組みに触れることで、日本の教育および地域の産学官連携による取り組みへの理解を深めます。

富山県では、富山市の SDG s 教育や SDG s 未来都市への取り組みについて学んだ後、県立高岡高校、富山県立大学を訪問。先進的な教育への取り組みを視察して、日本の教育への理解を深めます。

その他、日本文化にも触れ、日本への多面的理解を促進するとともに、日・ASEAN 間の人的交流をつうじて、世界的課題の解決に向けた国際的な協力を促進します。

参加者が本事業で得たこれらの知識や経験が、それぞれの教育現場での講義や授業の形で還元され、日・ASEAN の将来的な関係構築につながることが期待されます。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：福島、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

■プログラム概要

事業名称 : 次世代共創パートナーシップ—文化の WA2.0—
2025 年度「日 ASEAN 中高教員交流事業」
主催 : 独立行政法人国際交流基金 (JF)

グループ C

参加対象 : インドネシア、カンボジアの中等教育機関に所属する教員等 計 22 名
訪問地 : 東京都、山形県
日程 (予定) : 11 月 9 日 (日) 参加者来日
11 月 10 日 (月) オリエンテーション
東京都内視察、公文教育研究会、歓迎レセプション
11 月 11 日 (火) 山形県立米沢興譲館高等学校 (山形県米沢市)
11 月 12 日 (水) 山形大学 (山形県山形市)
11 月 13 日 (木) 鶴岡サイエンスパーク (山形県鶴岡市)
11 月 14 日 (金) 東京都・目黒区立原町小学校
11 月 16 日 (日) 参加者帰国
使用言語 : インドネシア語、カンボジア語

グループ D

日時 : 2025 年 11 月 16 日 (日) ~ 11 月 23 日 (日)
参加対象 : タイ、ベトナム、ラオスの中等教育機関に所属する教員および教育行政官等 計 26 名
訪問地 : 東京都、富山県
日程 (予定) : 11 月 16 日 (日) 参加者来日
11 月 17 日 (月) オリエンテーション
東京都内視察、東久留米市立第六小学校、歓迎レセプション
11 月 18 日 (火) 富山市、ガラス美術館
11 月 19 日 (水) 五箇山合掌造り集落、県立高岡高等高校 (富山県高岡市)
11 月 20 日 (木) 富山県立大学 (富山県射水市)、四季防災館
11 月 21 日 (金) 公文教育研究会、認定 NPO 法人キッズドア
11 月 23 日 (日) 参加者帰国
使用言語 : タイ語、ベトナム語、ラオス語

各訪問先での交流・視察の様子について、ご取材いただけます。

被招へい者へのインタビューが可能です。(各言語での通訳を手配します。)

訪問先の関係者 (学校の先生、生徒・児童など) へのインタビューや肖像権については、個別の許諾が必要です。

詳しくは、国際交流基金 ブランド推進部広報課 press@jpf.go.jp までご連絡ください。

この件に関するお問い合わせ :

国際交流基金 ブランド推進部 広報課 (広報担当 : 福島、熊倉)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

「次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－」について

国際交流基金（JF）は「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ。」をミッションに、総合的に国際文化交流を実施する日本で唯一の専門機関です。

JF では 2024 年から 10 年間にわたって ASEAN を中心とするアジア諸国と、日本語教育、文化芸術、日本研究、国際対話の分野で、互いの価値を認め合う、包括的な人的交流プロジェクト「次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－」を展開しています。

日本語パートナーズ事業と双方向の知的・文化交流事業を軸に、心と心のふれあいを通じて、多層的な人的ネットワークの強化や、対象地域と日本との将来にわたる強い信頼関係の構築を目指します。



◆日本語パートナーズ事業

アジアの中学・高校などで日本語を教える教師やその生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介をする人を派遣しています。

◆双方向の知的・文化交流事業

相互理解の上に成り立つコラボレーションの機会を創出することで、人と人の強い絆を培い、世界の架け橋となる次世代人材を育てます。

次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－公式サイト <https://asiawa.jpf.go.jp/>では、これまでの取り組みを記事や動画で掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

以上